

胃がんリスク(ABC)検診で 胃の健康度チェック！

New

健診時にご説明致します。当日お申込みください。

胃がんリスク(ABC)検診とは、血液検査で胃がん発症のリスク(危険度)を判定する検査です



ヘリコバクター・ピロリ菌

* こんな方におすすめします！ *

今まで胃のレントゲンや内視鏡検査を受けた事のない方！！

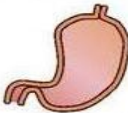




①ヘリコバクター・ピロリ抗体検査

ピロリ菌に感染しているか、又は最近まで感染していたかを検査する方法です。ピロリ菌に感染していなければ胃がんの発症はほとんどありません。

②血清ペプシノゲン検査

血液中のペプシノゲンを測定することで胃粘膜の萎縮の程度を調べます。胃に萎縮性の異常(萎縮性胃炎)があると、血液中のペプシノゲンが少なくなります。

この2種類の血液検査の組み合わせで、胃がんになるリスク(危険度)を判定します。

	ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	ペプシノゲン検査	胃粘膜の状態	危険率高まる
A	—	—	正常 	
B	+	—	軽度萎縮 	
C	+	+	中等度萎縮 	
D	—	+	高度萎縮 	

萎縮性胃炎が胃がんの前がん病変であることと、がんになった胃のほとんどがピロリ菌抗体陽性であることから、両者を検査することで胃がん発症のリスクを調べます。

注) 下記にあてはまる方は、リスク判定が困難であるもしくは治療が優先されるなどの理由から、正しい結果が得られない場合があります

- ◎ ヘリコバクター・ピロリ菌除菌後の方
- ◎ 腎不全の方
- ◎ 胃切除後の方
- ◎ 腹部症状(痛み・もたれ・吐き気等)がある方
- ◎ ニヶ月以内に胃潰瘍・逆流性食道炎の薬(プロトンポンプ阻害薬)を内服した方

